

小児期における給食の実態(才6報) 学校給食のCa, P含量について

甲子園短大

○畠田絹子

西田美枝子

山下厦子

目的 学校給食は現在、全国小学校のほとんどで実施されている。栄養摂取量中、無機成分については、Ca量が献立表に記載されるようになったが、CaとPの比が問題であり、PがCa:P = 1:2以上に過剰になるとCaの吸収率を低下させるといわれている。そこで給食の各食品ごとにCa, Pの含量およびその比について検討したので報告する。

方法 対象は昭和55年度1年間(181日分)のS市学校給食。給食献立表を用い、三訂補食品成分表によりCa, P量を算出、各々について季節別、年間 $\bar{x}$ , SD, CV, P/Ca比およびCa, Pの回帰式とその相関係数(r)を求めた。ついで食品群別にCa, Pの分布状態と比較した。

結果 1)年間の $\bar{x} \pm SD$ は総Ca  $356 \pm 55$ mg, 動物性Ca  $247 \pm 57$ mg, P  $449 \pm 57$ mgであった。Ca, PともにCVは比較的低く、P/Ca比も平均1.3で問題はなかった。  
2)181日分のCa, Pについての回帰式  $y = 161 \pm 0.81x$  を得たが、 $r = 0.777$ で、CaとP含量は高い相関を示した。季節別にもきわめて類似した回帰式が得られている。  
3)食品群別では、総Caの約65%が乳類および乳製品に、16%が学校給食用食パンを主とする穀類に、19%が副食に含まれており、動物性Caの94%は乳類に含まれていた。Pも48%が乳類に、23%が穀類に、残りの29%が副食に含まれており、Caの場合と数値が異ってはいるが、いずれも大半は乳類、ついで穀類に分布していた。P/Ca比が2以上を示した食品は副食の芋類、魚介類、卵類などで、肉類はPがCaの10倍以上に達しているが、給食181日中P/Ca比が2をこえた日は、1日もなかった。